

## 演題：歯周病専門医の光と影

牧草歯科医院 牧  
草一人

### 抄録：

あまりにも当たり前のことを言うのかと笑われるかもしれないが、歯周病専門医の業務は「歯を残すこと」である。しかしこの当たり前のことがなかなか難しい。「歯の延命」という錦の御旗のもと、歯が自然脱落するまで放置していた時代、「歯周外科」という新兵器を得て歯周病と積極的に対決していた時代、それでも治らないのだったらと最終兵器である「インプラント」が乱用された時代、そして最後にはその最終兵器までもが感染し、インプラント周囲炎という新たな医原性疾患を生み出した時代へと移り変わってきた。

私は35年前に大阪歯科大学卒業し、直ちに歯周病学講座に入局、その後も歯周病専門医を目指し、現在では指導医としての日々を過ごしている。その間の私の歯科医師人生はとても楽しかった反面、「抜歯の判定基準」や「治療法の選択」に悩み、難しくもあり、もどかしくもあった。患者さんの歯を抜いた後に「あの歯は本当に抜歯が正解だったのか」と反省したり、頑張っただけで歯周治療していた歯が抜歯となり、患者さんに悲しい思いをさせてしまったり。しかしそのおかげで良いこともあった。真面目に日常臨床に向き合っていると教科書や論文からだけでは学び得ない「真の臨床」を患者から学ばせていただくことができたのである。臨床は理科の実験ではなく、全ての判断が数値のみで決定されるものではない。時には正解が複数あることなど当たり前であり、もちろんのことその最大の理由は「患者の人生」というもう一つの重要な変数が背景に隠れているからである。患者にはそれぞれの異なる人生がある。超高齢社会を迎えた現在の歯科医師には医学的正当性だけに固執することなく、患者の人生に思いを馳せ、患者に寄り添った歯科医学的判断が求められている。「歯周治療かインプラントか」、このような単純な問いが無意味であることから、あえて今回の講演タイトルを「歯周病専門医の光と影」とさせていただいた。



牧草一人（マキグサ カズト）  
医療法人社団弘成会 牧草歯科医院  
理事長・院長

#### 略歴

1987年 大阪歯科大学卒業  
1990年 牧草歯科医院 開院  
1993年 医療法人社団弘成会 開設（2010年日本歯周病学会認定指導研修施設認定）

歯学博士（大阪歯科大学解剖学講座）  
日本歯周病学会認定 専門医・指導医  
大阪歯科大学解剖学講座 講師（非常勤）  
大阪歯科大学臨床講師  
Japanese Institute of Periodontology & Implantology (JIPI) 主宰  
Osseointegration Study Club of Japan 常任理事

#### 研修歴

大阪歯科大学歯周病学講座、京都大学医学部附属病院歯科口腔外科インプラント専門外来